

マイルストーン開示に係る事業計画の修正について
(平成23年12月期～平成25年12月期)

平成23年12月22日

上場会社名 カルナバイオサイエンス株式会社

(コード番号：4572 JQグロース)

(URL <http://www.carnabio.com/>)

問合せ先 代表取締役社長 吉野 公一郎

取締役経営管理本部長 相川 法男

TEL：(078) 302 - 7075

本日(平成23年12月22日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」を受けまして、平成23年2月10日公表のマイルストーン開示に係る事業計画及び平成23年8月5日公表のマイルストーン開示に係る事業計画を下記のとおり修正いたします。(表中の修正箇所は__を付して表示しております。)

1. 今後の業績目標 (平成23年12月期～平成25年12月期)

【修正前】

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成23年12月期 (計画)	770	△254	△200	△279
平成24年12月期 (目標)	1,150	9	25	23
平成25年12月期 (目標)	1,600	317	333	331

【修正後】

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
平成23年12月期 (計画)	586	△396	△342	△423
平成24年12月期 (目標)	1,150	9	25	23
平成25年12月期 (目標)	1,600	317	333	331

(注) 平成24年12月期以降の業績目標に関しては、現在編成中の平成24年12月期～平成26年12月期の中期経営計画がまとまり次第速やかに開示してまいります。

2. 各事業年度の計画達成のための前提条件に係る事項

マイルストーン開示に係る事業計画の概要

【修正前】

(単位：百万円)

	売上高		営業利益	
	創薬支援事業	創薬事業	創薬支援事業	創薬事業
平成23年12月期 (計画)	650	120	138	△392
平成24年12月期 (目標)	750	400	232	△222
平成25年12月期 (目標)	900	700	346	△28

【修正後】

(単位：百万円)

	売上高		営業利益	
	創薬支援事業	創薬事業	創薬支援事業	創薬事業
平成23年12月期（計画）	561	25	72	△468
平成24年12月期（目標）	750	400	232	△222
平成25年12月期（目標）	900	700	346	△28

(注) 平成24年12月期以降の業績目標に関しては、現在編成中の平成24年12月期～平成26年12月期中期経営計画がまとまり次第速やかに開示してまいります。

3. プロジェクト毎の研究開発計画

創薬事業における研究開発計画

【修正前】

ステージアップ数	前臨床⇒臨床（又は導出）			1
	探索⇒前臨床（又は導出）	1	2	2
研究テーマ数		5	5	5
		平成23年12月期	平成24年12月期	平成25年12月期

【修正後】

ステージアップ数	前臨床⇒臨床（又は導出）			1
	探索⇒前臨床（又は導出）	0	2	2
研究テーマ数		5	5	5
		平成23年12月期	平成24年12月期	平成25年12月期

(注) 平成24年12月期以降の研究開発計画に関しては、現在編成中の平成24年12月期～平成26年12月期中期経営計画がまとまり次第速やかに開示してまいります。

4. 修正の理由

本日別途公表しております「業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、創薬支援事業及び創薬事業において売上高の減少等により業績予想が修正になることから、事業計画を修正いたします。各事業別の詳細は以下の通りであります。

①売上計画の修正について

1) 創薬支援事業

創薬支援事業の売上高を地域別にみると、国内市場は、本年3月11日に発生した東日本大震災の影響により顧客における予算執行が従来に比し低迷したことに加え、前連結会計年度において計上があったリード探索サービスの売上が、協業先であったOSI Pharmaceuticals, Inc. が買収されたことに伴い減少したこと等から厳しい事業環境となりました。このような中、学術営業サポート等による顧客の深耕等により売上の上積み努めてまいりましたものの、前連結会計年度比37百万円減、前回公表予想に対し64百万円減の280百万円にとどまる見込みです。北米市場におきましては、日本国内において成功した学術営業サポートを米国内に浸透させたこと等により大幅な顧客数増を達成し、米ドル建ての売上高は前連結会計年度比22%増を達成

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価および投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。

する見込みであります。しかしながら、急激な円高ドル安の影響等により、前連結会計年度比で16百万円増加するものの、前回公表予想に対し40百万円下回る154百万円を見込んでおります。欧州市場におきましては、当期下半期の売上は順調に推移し当初業績予想をほぼ達成する見込みであります。第2四半期までの売上低迷が影響し、当初業績予想を25百万円下回る71百万円となる見込みであります（前連結会計年度比では12百万円の増）。その他地域の売上高においてはバルクタンパク質の大量受注等により前連結会計年度比26百万円増を達成し、前回公表予想に対しても42百万円上回る55百万円を見込んでおります。

前回公表計画の売上高に対する各地域別の達成率ならびに前連結会計年度売上高実績と比較すると、以下の通りであります。

(単位：百万円)

地 域	売上高			達成率 (B/A)	対前連結会計 年度比 (B/C)
	前回公表計画 (A)	今回公表計画 (B)	前連結会計 年度 (C)		
日 本	345	280	317	81.2%	88.1%
北 米	195	154	137	79.0%	112.2%
欧 州	97	71	59	74.0%	121.1%
その他	13	55	29	425.7%	189.2%
計	650	561	543	86.4%	103.2%

2) 創薬事業

創薬事業において、平成23年12月期に1テーマのステージアップを計画し、当社が研究開発を行っている創薬プログラムの早期導出又は研究テーマの探索段階から前臨床段階への進展を達成するべく、製薬企業等へのライセンスアウト交渉並びに研究開発を推進してまいりました。今回の導出交渉の過程において、製薬企業等から導出に係る具体的な条件提示があったものの、前臨床試験段階に至っていないテーマであり更なる試験データの提供を求められたこと等により、当事業年度内に導出契約交渉を完了させることができない見込みとなったことから、平成23年12月期の創薬事業の売上高について前回公表計画120百万円を25百万円に下方修正することといたしました。探索研究から前臨床研究へのステージアップにつきましても、リード化合物における薬理評価試験系が確立されつつあるものの、計画に比して遅れがでていること等から、平成24年12月期以降へ先送りすることといたしました。

②販売費及び一般管理費について

当社グループでは、かねてより事業の効率的推進を目指して経費節減に取り組んでまいりました。平成23年12月期においても、更なる固定費の削減に取り組んだ結果、当事業年度の販売費及び一般管理費は前回公表計画に比し34百万円減の786百万円を見込んでおります。

③損益計画の修正について

以上の結果、平成23年12月期の売上高は、前回公表計画を183百万円下回る586百万円となる見込みであります。これに伴い、売上総利益は176百万円減少する見込みであります。上述の販売費及び一般管理費の削減等により、営業損失は前回公表計画比142百万円増の396百万円、経常損失は前回公表計画比141百万円増の342百万円、当期純損失は前回公表計画比143百万円増の423百万円となる見込みであります。

以 上

本開示資料は、投資者に対する情報提供を目的として将来の事業計画等を記載したものであって、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価及び投資に関する決定は投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また、当社は、事業計画に関する業績目標その他の事項の実現・達成等に関しその蓋然性を如何なる意味においても保証するものではなく、その実現・達成等に関して一切責任を負うものではありません。

本開示資料に記載されている将来に係わる一切の記述内容（事業計画に関する業績目標も含まれますがそれに限られません。）は、現時点で入手可能な情報から得られた当社の判断に基づくものであり、将来の経済環境の変化等を含む事業計画の前提条件に変動が生じた場合その他様々な要因の変化により、実際の事業の状態・業績等は影響を受けることが予想され、本開示資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。当社の事業計画に対する評価および投資に関する決定は、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。また本資料最終頁末尾の留意事項を必ずご参照下さい。